教育研究業績書

2025年05月07日

所属： 日本語日本文学科　　資格： 准教授　　氏名： 設樂　馨

研究分野	研究内容のキーワード
日本語学、図書館情報学、国語教育	表記、文章・文体、公共メディア
学位	最終学歴
博士（文学）,修士（学術）,文学士	武庫川女子大学大学院 文学研究科 日本語日本文学専攻 博士課程 満期退学

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
1.共通語と方言	2024年4月1日～2024年8月31日	日本語学入門を修めた学生に、日本語の位相として共通語と方言のバリエーションと、共通語及び、方言が持つ価値について、紙芝居の方言翻訳などを通して学び、言語イメージについてのアンケート調査を学生が作成・集計・分析するよう指導した。
2.日本語学文献講読Ⅰ	2024年4月1日～2024年8月31日	日本語学の文献を精読できるよう、使うべき辞書の所在、辞書を引いて定義を引用すること、辞書以外に専門用語を調べるデータベース等の所在、論文の構成、関連研究の調査を実習的に行い、研究テーマと研究方法を記述した研究計画書の作成を行った。
3.日本語の世界	2023年4月1日～現在	共通教育科目として、日本語学の位置づけや概要を講義した。日本語学のレポート、あるいは、日本語に関するアンケート調査を実施できることを到達目標に、例えば、役割語や方言をグループ活動による創作を通して学ぶなど、アクティブラーニングを取り入れながら指導した。
4.図書館施設論	2020年4月1日現在	図書館建築・設計、配置計画等の図書館施設を管理運営していく為に必須となる知識を身につける。加重設計や内装・レイアウト・災害対策等、授業回によっては図書館施設を見学しながら（オンデマンドでは画像閲覧しながら）進める。
5.図書・図書館史	2020年4月1日2022年3月31日	文字や記録メディアの発達と図書館の目的に関する知識、および、各国、各時代の図書館の意義・機能に関する知識、記録資料（図書及び、情報資源）についての知識を深める。
6.グループワークで作る絵本	2018年2月～2019年2月	特別学期の全学プログラムにて『ミッケ！：いつまでもあそべるかくれんぼ絵本』1992年、小学館にならった絵本作りを実施。箱に小物を集め、ペアワークでテーマを練って配置し、受講生全員で１冊の絵本に仕上げた。
7.演習Ⅰ・Ⅱ	2017年4月1日～現在	日本語学を学ぶ観点と手法を学ぶため、社会連携活動を含め、アンケートやインタビューを伴う活動を展開。学生主体に企画・実施するグループ活動を通し、それぞれの日本語学の課題発見・解決のため、卒業論文制作を指導する。
8.卒業演習	2016年4月1日～現在	短期大学部2年間の学びを総括する卒業レポート作成を指導。1学年を4名の教員で担当するため、大学のクラウドサービスGoogle Classroomを活用したレポート提出など、教員及び学生の知の共有と可視化に取り組む。
9.日本語学入門	2016年4月～現在	日本語学を学習・研究するのに必要な基礎的知識と観点を、ワークを通して実践的に学ぶ。音声学における長さ「拍」を意識する五七調の短詩作成など初学者になじみやすいワークを設定。
10.日本語学概論	2015年4月1日～現在	日本語学を学習・研究するのに必要な基礎的知識を習得し、受講生同士で様々な研究の観点を探るため、ディスカッションしたり調べたことを共有したりする活動を、音声・語彙等の単元ごとに取り入れた。
11.日本語のしくみ	2014年9月～2020年3月	日本語のしくみを学び、グループワークによる調査な

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
		ど体験的な学びを促し、専門的な知識とチームワークの習得、強調や共同による学習を実践。
12.情報資源組織論	2014年9月～2019年3月	図書館における情報資源が利用者にとってアクセスしやすいよう、組織化する歴史や技法を学ぶ。概説が多く、一方向になりがちなため、説明後の課題取り組みのなかで小まめに振り返り、知識定着と疑問解消に努めた。
13.児童サービス論	2014年9月～2017年2月	図書館における乳幼児からヤングアダルトまでを対象としたサービスの理論と実践を学ぶ。授業形態として、講義形式もあるが、グループで展示作品を伴う実演（ブックトーク）を必須とした。
14.日本語の現在	2014年4月～現在	学生が実際に使用する日本語の実現形をデータとして活用、グループ活動と発表の技法も向上するよう努めた。データ収集には、スマートフォンを活用し、画像記録、音声記録したものを起こし、チームで分析、発表した。
15.日本語ライティング	2014年4月～2024年3月	文章作成法を段階を踏んで養成、基礎となる漢字運用力も習得させる。授業時間で漢字テストと文章作成の解説・例題を、予習でテスト範囲の漢字学習を、復習で文章作成法を、というサイクルによって学習習慣形成を促すとともに、ビジネス文書検定を対象に資格取得を促し、学習成果を実感させた。
16.情報資源組織演習Ⅰ・Ⅱ	2014年4月～2019年3月	図書館資料に分類記号と件名標目表を付与、日本目録規則を作成する技術を習得する。演習とはいえ、多人数受講であるため、各自が課題に取り組み、相互添削により受講生同士の学び合いが活性化するよう工夫した。
17.今さら聞けない日本文化―うちらは知ってる？？留学生が学ぶ日本文化―	2013年2月15日	特別学期に全学向けに開講。日本人にとって当たり前の事柄を、留学生用テキストによって新たな視点で認識し、グループディスカッションを中心に各自、理解を深めた。
2 作成した教科書、教材		
1.あめかちゃんとまほうのさかな	2021年8月6日	あかし市民図書館にて、小学生を対象者に、(株)コトバノミカタと設樂ゼミが共同するイベントで実演。イベント後は、関連資料の展示に加えて、ワークシートのTwitter公開により、図書館も図書館利用者も相互に情報発信する機会を作った。
2.あめかちゃんとまほうのせんし	2020年11月29日発行	(株)コトバノミカタによる漢字キャラクターの教育コンテンツを監修。2020年12月YouTubeにてアニメ版を限定公開（2021年以後は(株)コトバノミカタのホームページで一般公開）。絵本版は2021年以後、(株)コトバノミカタより販売。
3.あめかちゃんとまほうのかんむり	2020年02月09日	「株式会社コトバノミカタ」による漢字キャラクターの教育コンテンツを監修。2020年2月「アフタースクールここね宝塚」にてワークショップを開催、2020年4月以降はT-KIDSスクールでオンライン授業を開催。
4.生涯学習論　つなぎ広げる学びの循環	2015年11月10日発行	「実践図書館情報学シリーズ」の１冊として「生涯学習」を俯瞰し、生涯学習社会を理解するためのテキスト。
5.読書で豊かな人間性を育む児童サービス論	2012年9月27日発行	子どもの読書を支援する司書育成のために、児童図書資料について学ぶ一節として「新聞や雑誌を中心とした読書のあり方」を著した。
6.教師を目指す人のための教育方法・技術論	2012年4月16日発行	教育現場で働くために知っておくべき技術について、「テレビ番組・テレビを活用した教育を理解する」と題した第９章を担当した。
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		
1.演劇部部長	2019年4月～現在	本学学友会の演劇部を指導。
2.海外学生引率	2013年～現在	「海外文化体験演習」にてMFWIへの引率（2回）、「日

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
4 その他		
3.高等学校内模擬授業講師	2012年12月19日～現在	本語教育インターンシップ」にて韓南大学（於：韓国大田市）への引率（1回）。 兵庫県を中心に、岡山・京都・大阪等、近隣の高等学校において、文学部で学ぶ意義や適性の理解を促す日本語・日本文学に関する授業実施。卒業後の就職状況、学生生活全般も説明。

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
1.中学校・高等学校教諭専修（国語） 2.中学校・高等学校教諭一種（国語） 3.日本語教育主専攻	2007年8月 2000年3月 2000年3月	
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		
1.学生部常任委員	2024年4月1日～現在	学生部常任委員及び、学友会厚生委員会顧問として、学生指導や学生生活の向上に努める。
2.入試センター次長	2023年4月1日～2024年3月31日	本大学・本短期大学部及・大学院に関する広報活動及び、入試業務に従事した。
3.広報入試委員会委員	2021年4月1日～2023年3月31日	本大学・本短期大学部及・本学科に関する広報活動として、合同ガイダンスや説明会、学科パンフレット作成に従事し、入試では本部における業務に従事した。
4.共通教育委員会委員	2019年4月1日2021年3月31日	共通教育部と学科および、本学科教務委員と連携し、共通教育委員会の業務に従事する。
5.学生委員会学生委員	2018年4月1日～2019年3月31日	大短日合同幹事会主催の新入生歓迎会、大短日合同幹事懇談会（前期）（後期）、体育祭、文化祭を含め、学生生活全体における学生指導に努めた。
6.広報入試委員会広報入試委員	2014年4月1日～2018年3月31日	本大学・本短期大学部及・本学科に関する広報活動として、合同ガイダンスや説明会、学科パンフレット作成に従事し、入試では本部における業務に従事した。
7.武庫川学院教育環境整備戦略委員	2013年4月1日～2015年3月31日	学院の教育環境整備を戦略的に進めるために組織された委員会において、各委員や関連部署との協議や書類作成に従事した。
8.女性研究者研究活動支援事業	2012年12月1日～2016年3月31日	学内女性研究者の研究支援を追究する事業において、キャリア支援部門サブリーダーとして各種セミナーやサロン提供などに従事した。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
1.日本語教育ができること、そしてことばについて金田一秀穂先生と学んで ―教授退職記念論文集―	共	2022年2月発行	凡人社	金田一秀穂研究室で学んだ修了生たちによる、日本語教育や日本語学に関する論文集。論文執筆「14　マスコミュニケーションにおける読解資源－表記効果の構造分析に向けて－」と、編集を務めた。
2.生涯学習論　つなぎ広げる学びの循環	共	2015年11月10日発行	学芸図書株式会社	教職課程や司書課程等で学ぶ生涯学習論のためのテキスト。全13章のうち、第２章生涯学習の対象と手法、第７章公民館、第９章博物館、第11章学習を支援する専門職員の計４章を担当。
3.読書で豊かな人間性を育む児童サービス論	共	2012年9月27日	学芸図書株式会社	図書館司書を目指す大学生向けの、実践図書館情報学シリーズ4として編まれた教科書で「第２章第３節新聞や雑誌を中心とした読書のあり方」の執筆を担当。学校教育に取り入れられる新聞の活用手法や雑誌の商業性に関する指摘など、児童に対して司書が知っておくべき事柄を解説した。（全10ページ）
4.教師を目指す人のための教育方法・技術論	共	2012年4月16日	学芸図書株式会社	幼稚園から高等学校までの教諭を目指す大学生向けに、実践に基づく教育の方法・技術を示す教科書で「第９章テレビとテレビ番組を活用した教育」の執筆を担当。小学校・中学校を中心とする学校教育において、メディアの具体的な活用方法として放映中のテレビ番

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
				組を用いて解説した。（全8ページ）
2 学位論文				
1.バラエティ番組における文字テロップの記述的研究―表記効果の構造分析―	単	2011年11月	武庫川女子大学大学院文学研究科	日常的な言語生活においては、書かれたものを読むことや、話されたことがらを聞くことが同時に行われることがある。視覚と聴覚とで重複して受容する言語情報が生成され、受容されているわけである。本論文はその実態と、その現象が現代日本語表記において及ぼす効果について論究した。研究対象には、地上波で多くの国民に親しまれる日常的なテレビ番組において、表記に関わる観点から「文字テロップ」を扱ったものである。
3 学術論文				
1.児童書にみる「食のことば」における探究	共	2025年3月31日発行	武庫川国文第九十八号	食課題解決にフードリテラシーを参照すると、栄養や食事の知識の獲得、活用だけでなく、毎日の食事を豊かにする力を高めることも重要とされるため、本論は言語面で食を豊かにする「食のことば」の探究を目指した。具体的には、定評のある児童書8冊から食がどう描かれているのか言語表現を抜粋し、味（甘味）、テクスチャー、食べる様子は記述が少ないこと、生活の貧富を描く食事があること、郷土食・行事食によって豊かな食が描かれることがあり、食を通したコミュニケーションの重要性が導出された。また、一部の食材やメニューやたばこがステレオタイプを形成していることから、食にアンコンシャスバイアスが潜む危険性を指摘した。
2.文学部学生の地域連携の試み―A市子ども食堂の事例―	共	2025年2月26日発行	日本語日本文学論叢第二十号	文学部のカリキュラムにおいて社会連携による教育効果があるのか、筆者らの事例を検証し、協働や多文化社会の理解を深めたことを報告した。事例では、子ども食堂に複数学部の学生の混成チームが訪問し、当該地域の住民との交流、特に外国にルーツを持つ住人と交流した印象が大きかった。当該学生へインタビュー調査を実施、TAE理論を用いた質的研究法によって分析、子ども食堂についての結果文「子ども食堂は貧困や孤独にある子どもも受け入れるが、子らは一時的な共同体のなかで子どもらしく器用に生きて、居場所を自力で作りあげる」と、多文化理解の結果文「異文化接触は躊躇や怖れ、心配を感じて悩むけれど、当然だと思っていたことを見直して踏み出せば、温かさを感じて感謝できる」を得た。
3.Gender-based Differences in Healthy Eating Practices and Association with Childhood Dietary Behaviors in Young Adults	共	2024年5月1日	日本家政学会誌 Vol. 75 No. 7 1~15(2024)	本研究は、若い世代における健康的な食生活の実践と学童期の食習慣との関連について男女による違いに着目し、主要な実践内容や実践しない理由において一部,男女差が認められた。また、ロジスティック回帰分析の結果、健康的な食習慣の実践と関連する学童期の食習慣は、男性は「食育機会」、女性は「健康的な食事」であり、性別により異なることが示された。以上より、若い世代における健康的な食習慣の実践と関連する学童期の食習慣には性差があることが示唆された。
4.MWUライターズ・イン・レジデンスの教育目標と教育効果	共	2024年4月5日発行	武庫川国文第69号 64～72ページ	カリキュラム検討に際し、本学科学生の特性を伸ばし、その文章表現力を内外に発信するプログラムとして、「ライターズ・イン・レジデンス」を企図、教育として位置付けるための目標及び、効果測定を試論した。プログラムは、研修センターに１泊し、学生が創作活動に取り組むもので、１日目午前にゲスト講師として小説家を招聘、講演を聞く。その後、各自で執筆活動に取り組み、2日目にグループで校正して仕上げ、メディアプラットフォームｎoteにて作品を配信、有志は同年代の小説家との対談にも登壇し、文化祭の催事とした。共著者は設樂馨・工藤彰
5.漢字・食育融合教材の開発－持続可能な学習機会の創出を目指して－	共	2023年4月1日発行	武庫川女子大学「学校教育センター紀要」第8号	筆者らは子どもが学校外で学習する機会創出として、子ども対象の大学生による地域交流をするなかで、食育プログラム開発・評価をする。このプログラムに使う漢字・食育融合教材の開発と実演について考察した。
6.小学生新聞の投書特集における結束性	単	2023年3月8日発行	武庫川女子大学紀要第70巻	小学生新聞に「ゆうだい君の手紙　東電と原発　キミはどう思う？」という投書特集が7日分、掲載された。別人が記した投書が一群となるとき、意見は分断しているにも関わらず結束性を持つとされる、その結束性とは何か、選択系機能言語学に従って分析し、論じた。
7.子どもに身近なキャラクターたち	単	2022年10月6日発行	『武庫川女子大学言語文化研究所	子どもに身近な絵本やゲーム、アニメに登場するキャラクターとして、「アンパンマン」「ドラえもん」「ポケットモンスター」の名

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
			言文研研究叢書No.1-武庫川学院創立80周年記念論文集- ネーミングの言語学』武庫川女子大学言語文化研究所（pp.22-pp.34）	称を概観し、子どもが物語世界を理解するうえで、名称に含む語句や音の響きから情報を得ていることを指摘し、物語の世界観を楽しんでいると結論づけた。
8.『説文解字』の竹の義―メディア機能の考察―	単	2021年7月発行	言語と交流第24号（PP.12～PP.21）	本研究では、尾崎雄二郎監訳『訓読 説文解字注 絲册』1989年刊の「竹部」より書字に関わる17字及び、「竹」1字を取り上げ、『大漢和辞典』によって日本語における字義と対照した。後漢において、植物としての竹字に次いで、道具類に先んじてメディア機能のある竹字を配していること、それぞれの字義を精査し、メディア機能の重要性を論じた。
9.小学生新聞の投書における結束性	単	2020年3月18日	日本語日本文学論叢第十五号	小学生新聞の投書が、掲載日をまたいで特集されたことがある。その特集が掲載紙の異なるものであっても結束性を有するのはなぜか、ハリティ・ハサンの理論に基づき、架空のテクスト性や語句の結束性、主題とテクスト形成的意味、話題的主題、語彙的結束性の意味としての、首尾一貫性を論じた。
10.3.11原発事故をめぐる小学生新聞の投書	単	2020年3月	武庫川女子大学紀要 人文・社会科学編第67号	毎日小学生新聞2011年5～7月に掲載された投書にて、エネルギー問題は事故責任を問う意見が交わされた。それらの投書群について、一般紙の投書の文章スタイルを踏襲していることを確認したうえで、書き手の属性を分析し、それぞれの「思い」を考察した。
11.小学生新聞2紙における地震報道―大阪北部地震を例に―	単	2019年7月発行	言語と交流第22号（PP.64～PP.77）	小学生を対象とする全国紙「朝日小学生新聞」と「毎日小学生新聞」より、大阪北部地震の報道を資料に、児童の防災教育を調査し自然災害の多い日本における「生きる力」の一つとして、災害の知識の重要性と報道の在り方を検討した。
12.小学生新聞の表記：振り仮名と字種を中心に	単	2019年3月31日発行	京都女子大学図書館司書課程研究室『図書館情報学研究紀要 6』pp..31-38	小学生を読者とする全国紙「朝日小学生新聞」「毎日小学生新聞」の振り仮名及び、漢字や平仮名、片仮名といった字種の使い分けについて調査し、平仮名の多用と学習効果を狙う意図を指摘した。
13.図書館司書課程における新図書館を活用したアクティブ・ラーニング授業の展開	単	2018年3月31日発行	京都女子大学図書館司書課程研究室『図書館情報学研究紀要 5』pp..29-38	2017年秋に開館した京都女子大学の新図書館に、アクティブ・ラーニングを促進するエリアが誕生した。学生は、そうした空間、機材、資源によっていかに変化・対応できるのか。アクティブ・ラーニング型の授業課題としてペアワークによる絵本作りに続き、グループワークによる図書館利用案内「新図書館パンフレット」と読書案内「錯視の世界」の作成に取り組み、図書館活用を推進し、新しい活用法を模索する学生の記録から、「滞在型図書館」を考察した。
14.文字テロップの焦点―修復に着目して―	単	2016年3月31日発行	武庫川女子大学言語文化研究所年報第26号（PP.17-PP.31）	地上波で放映されるテレビのバラエティ番組に見る文字テロップの研究は、現状ではその種類や機能について述べたものがある。本稿ではトークショーの修復の談話に着目し、画像や音声情報と文字テロップとを対照していくと、コンテンツのなかで文字テロップが焦点をあてているものが、発言するタレントの配役、ボケ、ツッコミなど話芸の解釈を指定し、談話のコメディ効果を高めていることがわかった。
15.児童の読書活動とその役割に関する一考察	共	2014年3月	日本語日本文学論叢第九号(PP. 103～PP.112)	過去数年にわたって実施してきた、武庫川女子大学学生を対象にした読書活動に関する調査において、文学部日本語日本文学を専攻する、いわゆる「本好き」の学生と、そのほかの学生との比較を検討した。しかし、有意な差は見出せず、司書課程履修者は図書への嗜好が均質的な集団であることが確認された。また、読書と学力の関係を考察した。（設樂馨、平井尊士）
16.知の拠点としての図書館におけるアクティブラーニングに向けて―本学附属図書館にて展開すべき「学び」とは―（査	共	2014年3月	武庫川女子大学紀要 人文・社会科学編第60号(PP. 1～PP.9)	武庫川女子大学においてアクティブラーニングを推進していくため、新しい学修環境となる附属図書館でどのようなことができ、また、学生はどのようなものを求めているのかを対照し、今後の学修形態を考察した。（設樂馨、平井尊士、川崎安子）（第１節、第３節）

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
読付）				
17.女子大生の実態調査から見るこどもの読書活動支援	単	2013年7月	言語と交流第16号（PP.34-PP.43）	図書館は情報集積の施設であり、集まった情報は多様な利活用がありうる。では、インターネットやパソコンが広まった現代にあって図書館に置かれる司書はどのような役割を果たすべきか。次世代の司書に「メディアファシリテーター」という呼称を与え、その職能を明示すべく、本論は子どもの読書活動支援に特化して考察した。これから司書になろうとする本学学生の実態を踏まえ、子どもが他者と関わる、自己と向き合うために司書が出来ることを提案した。
18.昔話の現代的価値―一九九〇年代生まれの女子大学生の回答より―	単	2013年3月	日本語日本文学論叢第八号（PP. 91～PP.104）	本学で司書課程科目「児童サービス論」を履修する女子大生136人を対象として、昔話31作品に込められた価値観について調査した。その価値観について大まかに次の６点を示した。１油断禁物、努力と粘り強さで願いは叶う、２高齢者への敬意を忘れない、３善行を励行し清貧に生きれば恩恵を得る、４因果応報だから悪行は慎む、５相手を許す・相手との約束を守る。
19.幼少期の読書とその効果―1990年代生まれの女子大学生の場合―（査読付）	共	2013年3月	武庫川女子大学紀要人文・社会科学編第60号（PP. 1～PP.8）	司書課程履修者を対象に、幼少期の読書傾向について調査し、就学前と就学後による違い（識字能力の有無による違い）や就学後の学習進度による違いなどを区別しながら、読書によってどのような効果があったのかを考察した。読書の効果として、図書の魅力を感じる力、図書から学ぶ力、図書の魅力を伝える力の３点を指摘した。（設樂馨、平井尊士）
20.図書館サービスにおけるコミュニケーション―児童を対象者とした場合―	単	2012年12月	武庫川女子大学言語文化研究所年報第23号（PP.47～PP.61）	司書課程履修学生が児童に図書推薦の場面を調査し、コミュニケーションの観点から問題点を指摘した。調査は仮想視点を採用し、学生が司書として子どもに童話『アメだまをたべたライオン』を手渡す場面を作文させた。そこでとるコミュニケーションを分析し、子どもに親近感を与えて引き込むオーディエンス・デザインや童話を一般的理解にとどめるのか抽象的理解におよんで推薦するのか等の特徴を見出した。
21.「読書」に出会う―1990年代生まれの女大学生の場合―	単	2012年7月	言語と交流第15号（PP. 82～PP.93）	1990年代生まれの本学学生と読書との関わりを調査した結果から、初めて本を読む行為の記憶について分析し、読書との出会いは養育者との関わりであり、子どもの読書環境の整備には、周囲の大人が子どもと関わり、本を交えて触れあうことが大切であることを確認した。
22.NHKバラエティ番組に見る文字テロップの変遷―テレビにおける表記実態と機能の分化―（査読付）	単	2012年3月	武庫川女子大学紀要　人文・社会科学編　第59号（PP.1～PP.9）	これまで研究時と同時期に限定された資料のみによる文字テロップ研究が、NHKアーカイブス利用により経年調査を可能とした。そこで、表記内容の変遷を分析することで、科学技術の進歩が文字テロップのデザイン性や演出効果を多様化させ、画像を装飾し、臨場感のある表記内容を持たせて視聴者のテレビに対する関心をひっかけるもの（フック）として働くようになった経緯を明らかにした。
23.映像メディアと子どもたち―文字テロップと中学生の言語表現力―	単	2012年3月	日本語日本文学論叢第七号（PP.123～PP.138）	中学校学習指導要領「伝え合う力を高める」点に注目し、テレビに見られる文字テロップに関するアンケート調査の結果から、書く力と文字言語によって表現する力を分析した。表現性を感じとる力と、表記法として場面によって使い分ける力と区別して習得されるものであることを確認し、学力に反映されることを示唆した。
24.NHKクイズ番組に見る文字情報の変遷	単	2011年7月	言語と交流第14号（PP. 90～PP.103）	クイズ番組に見られる文字情報を経年調査し、表記内容の変遷を追った。初期から一貫して提示されているもの、1980年代から内容が詳しくなって増加したもの、2005年から追加され常態化したもの、というように通時的に分類することで、文字テロップ使用について分析した。結果、文字情報の増加は視聴形態の変化に応じたものと考察した。
25.「紅白歌合戦」に見る30年間の文字テロップ―1960年代から1980年代まで―	単	2010年11月	武庫川女子大学言語文化研究所年報第21号（PP. 35～PP.46）	歌番組に被る様々な文字情報の変遷を調べるため、ＮＨＫ紅白歌合戦のおよそ３０年分を調査し、時代背景とともに分析した。結果、番組の枠組みや出演者の情報、歌の情報、勝敗結果が表記されていて、1982年から歌詞が加わっていた。時代背景としてカセットテープやＣＤによる歌謡曲の浸透、カラオケによる歌詞提示の欲求を検討した。
26.万葉集　人麻呂歌の「ラ」をめぐって	単	2010年3月	日本語日本文学論叢第五号（PP. 71～PP.88）	「彼ら」の「ら」とは何を意味するのか？日本語が表記された当初、『万葉集』における人称を表わす語に付く「ラ」及び、形状言「アカラ」に含まれる「ラ」の使用を検証すると、「ラ」は柿本人麻呂の前後で意味を変化させている。複数を表わさない接尾語

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
				「ラ」は、彼より後世の歌では複数を表わすようになることを証明する。
27.テレビ視聴態度と文字テロップ－学生と成人の対比－	単	2009年10月	武庫川女子大学言語文化研究所年報第20号（PP.29～PP.54）	テレビ視聴では、映像に文字が被って出る「文字テロップ」を目にすることがよくある。この文字テロップについて視聴者がどのような意識を持っているのか質問紙による調査を行なった。分析では、学生と一般成人とで比べた。すると、学生にはテレビ視聴が希薄化する傾向があり、文字による「納得」や「認識」を求める姿が見られた。
28.万葉集　人麻呂歌に見る「等」―接尾語と、朝鮮経由の漢語と、音仮名について―	単	2009年3月	日本語日本文学論叢第四号（P. 65～P.83）	漢字は元来、形、義（意味）、音（読み方）で成り立つ。本稿は『万葉集』人麻呂歌のなかで「等」字を取り出し、その義と音を検証した。すると、漢字が朝鮮経由で中国から移入されたことを裏付けるような義のほか、いくつかの用法が見られた。そこで「等」が朝鮮語における「類」の義と、それまでの日本語にあった接尾語や音としての「ラ」と交じり合って日本固有の「等」という日本語を形成した、と考えた。
29.テレビのトークコーナーを読む―同一の発話を伴わない文字テロップの実態―	単	2008年2月	武庫川女子大学言語文化研究所年報第18号（PP.37～PP.61）	テレビのトークコーナーに出現する文字テロップには、出演者の発話に従って表記内容を変えるものの、発話と同じ内容ではない文字テロップが見られる番組がある。そうした番組から収集した実例をもとに、表記内容の実態を記述し、発話と同一でない文字テロップでは、状況に応じて表記者の立場を即時的に変える特徴を指摘する。
30.『繪入開化往来』解題	共	2007年3月	地域文化研究叢書2　『繪入開化往来』（PP.113～PP.119）	武庫川女子大学が所蔵する『繪入開化往来』について、書誌、諸本の種類、内容、口絵を考察した。題の通り、本文の上段に挿絵があり、著者は主にこの挿絵の一覧表作成に関わった。挿絵には対象について漢字表記とカナ表記が付され、俗名や簡略な注を添えている。これらを整理し、挿絵一覧表を作成した。（辻　博光、設樂馨）（表）
31.ナレーションの文字テロップ	単	2006年12月	武庫川女子大学言語文化研究所年報第17号（P.13～P.28）	最近のテレビには、数多くの文字情報が画像に出現し、視聴者に「読む」という意識はなくとも、読まされているのが現状ではないだろうか。本論では、バラエティ番組に出現する、ナレーションに伴う文字テロップに注目し、文字テロップの表記内容について、ナレーション（音声情報）との対応から分類および分析し、その多くは要約になっていることを明らかにした。
32.バラエティ番組35種における文字テロップ	単	2005年12月	かほよとり第13号（PP.72～PP.82）	「ながらのテレビ視聴」とともに、テレビは多くの文字テロップが付加されるようになってきている。この文字テロップの出現するバラエティ番組を35種にわたって取り上げ、番組内容によって分類したジャンル（トークや情報、ドキュメンタリなど）を設定し、ジャンル別に文字テロップの表現内容を記述し、傾向を考察した。
33.発話状況を再現する文字テロップ	単	2005年9月	教師づくり教材づくり日本語教育―河原崎幹夫先生古稀記念論文集―（PP.24～PP.35）	テレビのトークコーナーに出現する文字テロップについて、一般的な文献資料とは異なる文字の振る舞いを考察した。それは、話し言葉を写したような表現スタイルであり、発話の場面を再現していることを指摘した。こうした発話状況の再現が持つ効果として、受容者となる視聴者の受容態度にも触れ、考察を加えた。
その他				
１．学会ゲストスピーカー				
1.テレビのバラエティー番組における文字テロップ―発信する主体の複数性―	共	2010年3月	社会言語科学会第25回大会発表（慶應義塾大学）	シンポジウム「メディア・ディスコースにおけるマルチモーダル・コミュニケーション」のテレビにおける場合として発表を担当した。テレビは発信のみの一方通行的なメディアであるにも関わらず、その表記主体に複数性を持たせることで視聴者と一体化するような受容態度を形成する場合がある。そうした複数性と表現の多様性を読み解くと、書き手（番組制作者）の解釈によって視聴者による解釈の幅が限定されることがある、という事実を提示した。（設樂馨、佐藤彰）
２．学会発表				
1.子育て世代におけるフードリテラシー関連要因の探索	共	2024年9月15日発表	第70回（一社）日本家政学会中国・四国支部研究発表会	発表背景は、親の食習慣や家庭の食環境は子どもの食習慣の大きく影響するため、子どもの養育者が多い世代（20～40歳代：子育て世代）の食習慣改善は、次世代の食習慣や健康に良い影響を及ぼすと考えられる。フードリテラシー（FL）は望ましい食習慣の形成に必要な知識やスキル等の集合体であり、FLは食事の質と関連すること

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
				が示されている。そこで、子育て世代におけるFL関連要因を探索するため、フードリテラシー尺度の一つであるShort Food Literacy Questionnaire（SFLQ）の日本人集団への異文化適合と同等性検証を行い、人口学的特性や社会経済状況（SES）等によるFLの差異を解析した。SFLQ-Jp得点と健康的な食生活リテラシー（HEL）尺度得点、健康的な食事パターン得点（Rapid Prime Dietary Quality Score: rPDQS）、健康習慣指数との関連から妥当性を確認、年齢や性別等の人口動態特性や学歴や主観的経済状況など社会経済状況によるSFLQ-Jp得点の差異を検証した。
2.漢字の持つ意味を利用した教材開発に関する研究ー食べ物に注目してー	共	2024年8月3日発表	ICJLE2024　日本語教育国際研究大会	日本人のみならず、日本語学習の際には、「漢字」に対する苦手意識が少なからずある。漢字を暗記するだけでなく、各漢字に含まれる意味を想像したり、考えたりしながら、興味を持つ教材を開発することで、より漢字に対する抵抗感を低くし、主体的に学びたいという学習意欲を高めたいと考え、ゲーム教材を通して食物に含まれる栄養や料理の内容から伝わる文化的背景にも触れられるものを作成、仮実践の報告をした。
3.若い世代における健康的な食生活の実践 状況と学童期の食習 慣との関連：男女による違い	共	2024年5月26日	日本栄養・食糧学会 第78回大会	男女差に注目して若い世代の食生活を調査した。結果、若い世代の活習慣病予防を意識した活の実践状況に男の違いは認められな かったが、実践しない理由や関連する学童期の活因に違いが認め られた。若い世代の健全な習慣を促すためには、これらの男の違いを考慮した教育の必要性がされた。また、どもの頃から男偏 りなく経験を積むことができる環境整備の必要性も唆された。
4.Actual Conditions and Issues of Supporting Children’s Cafeterias Kodomo Shokudo”in Japan.	共	2023年8月7日発表	21st ARAHE 2023 BIENNIAL INTERNATIONAL CONGRESS	This paper presents the support activities conducted by university students in a children’s cafeteria, the resulting changes, and the issues that were revealed. The study subject was children’s cafeteria support activities conducted since 2018. These activities and the children’s and students’ impressions of them were analyzed. The children frequenting the cafeteria were initially not used to having the university students around but soon showed interest in them. Eventually, they learned each other’s names and began to build individual relationships. Many of the cafeteria’s supporters are elderly people, and therefore, they were pleased to see university students, who are physically strong, participating. It was also observed that it had been difficult for the university students to get involved in the community around their university, but through the activities at the cafeteria, they became more interested in local information among other things.
5.若い世代における 現在の生活習慣病予防や改善を意識した食生活の実践状況と学童期の食生活に関する因子との関連	共	2023年5月27日発表	日本家政学会 第75回大会	若い世代（青年期）における生活習慣病の予防や改善を意識した食生活の実践状況と学童期の食生活に関する因子との関連を明らかにした。生活習慣病の予防や改善を意識した食生活の実践状況の調査結果を統計解析し、実践内容・実践していない理由は自由記述の質的内容分析した。
6.小学生新聞の災害報道	単	2019年3月15日	メディアとことば研究会	小学生向けの新聞として単一紙で代表的な3紙「朝日小学生新聞」「毎日小学生新聞」「読売KODOMO新聞」がある。この3紙の2018年6月を中心に、災害報道の教育的側面を検討する。小学生新聞の特徴（大きな文字、振り仮名があって多色刷り、教科に直結する話題が豊富など）と教育への導入（ＮＩＥ）を述べたあと、現状の防災教育として、文部科学省「『生きる力』をはぐくむ防災教育の展開」などを概観し、大阪北部地震やその他の災害・防災関連記事を検討した。
7.TAEを応用して記憶を見つけ、画像で表現する	単	2018年3月1日	第４回TAE質的研究シンポジウム	司書課程科目において絵本作りを実践するなかで、絵本のテーマには制作者の記憶が埋め込まれることがわかった。そこでTAEを応用して、テーマを意識的に上らせて、イメージを明確化することで作品

				性を豊かにする授業実践を報告した。
8.「司書課程における	共	2015年9月	情報コミュニケー	本学教育環境整備により、アクティブラーニングを促進する教室が

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
図書館サービスのための教育-アクティブ・ラーニング教育はどの程度必要あるいは可能なのか-		27日	ション学会第17回研究会	充足した。その状況を示すとともに、当該環境で必要とされる、あるいは実現可能なアクティブラーニングを整理するため、司書課程科目において検討を加えた。共著の分担として、アクティブラーニングを実現している科目のひとつ「児童サービス論」についての実践例を発表した。平井尊士、設樂馨。
9.武庫川女子大学附属図書館におけるアクティブラーニングの試み：管理主体からサービス主体の図書館への変革を目指して	共	2013年10月6日	情報コミュニケーション学会第11回研究会（長崎大学）	文部科学省が図書館を軸に推奨する、教員と学生あるいは学生同士のコミュニケーションとして、アクティブラーニングが注目される。そこで、アクティブラーニングの現状を示し、次年度から本格的に始動する本学での事例を説明した。そして、図書館変革と学びのコミュニケーションの展開について考察した。
10.児童のメディアコミュニケーション向上のための女子大生による絵本サイトの選択と解釈、その変化要因	共	2013年2月23日	情報コミュニケーション学会第10回全国大会（武庫川女子大学）	児童の読書力やコミュニケーション能力向上のために、絵本は重要な役割を担う。情報発展技術のなかでデジタル絵本が広まっているが、子どもに役立つデジタル絵本について簡易な調査を実施し、その結果を報告した。デジタル絵本は文章化された内容の解釈によって選択され、解釈は選択者の価値観に左右され、価値観は時事情報で揺れ動くことを指摘した。設樂馨、平井尊士
11.ＴＡＥワークブックを用いた文章表現法の教育的効果について―2012年度文系女子短期大学部生の場合―	単	2012年12月9日	第1回TAE質的研究国際シンポジウム　研究発表（宮崎大学）	Thinking At the Edge（TAE）は2004年にユージン・ジェンドリンと夫人メアリーによって開発された概念生成法で、近年、教育や心理、看護等の対人支援に関わる領域で重要視されている。発表者はTAEによる文章表現ワークブックを短期大学部の授業で実践した事例から、学生が作成した文章を評価するなかで、TAEがもたらす教育的効果の観点を提出した。
12.現代日本語表記に見る終助詞使用（文字テロップの場合）	単	2011年8月	第十回世界日本語教育研究大会　ポスター発表（天津外語大学）	現代日本語表記の一種に、テレビのバラエティ番組に被る文字テロップがある。なかでもバラエティ番組のトークショーでは、出演者の発話内容を表記した文字テロップが被り、話し手の態度やコミュニケーションの姿を表記している。発表では、文字テロップに表記された終助詞「よ」「ね」「よね」に着目することで、文字テロップを日本語接触場面とするときの問題点および利点を指摘した。
13.文字テロップと視聴者意識	単	2009年12月	第28回メディアとことば研究会（武庫川女子大学）	テレビ画像に被せられた文字情報「文字テロップ」に関する約700名の視聴者アンケートの結果を報告する。さらに、文字テロップの実例をいくつか取り上げるなかで、声を視覚化することや、トークに生じる発話者たちの共有感覚を文字化するという、文字テロップの役割を考察する。
14.文字テロップにおけるバラエティ性とドキュメンタリー性の比較	単	2008年9月	計量国語学会第五十二回大会（武庫川女子大学）	文字テロップとはテレビで映像に被せた文字情報を指す。この文字テロップは、ナレーションが挿入される場面ではナレーションの要約と言える内容でとても短い。けれど番組によって特徴的なスタイルを持つ。語数や名詞、符号を計量的に扱うことで、ドキュメンタリー性を客観的な情報提示、またバラエティ性を主観的な説明と結論付けた。
３．総説				
４．芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
５．報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
1.子ども食堂の交流拠点機能―漢字・食育融合教材の開発と実践による教育効果の評価―	単	2025年2月10日発表	第9回研究成果の社会還元促進に関する発表会	A市の子ども食堂で、子どもと大学生、地域住民と大学生の交流を通して、食生活向上と漢字や日本語の学習の機会を創出し、交流拠点としての子ども食堂の機能を、大学生の教育効果から検証した。交流では、A市内のカレー店訪問を通し、多国籍の市民との交流、市民まつりでの交流もある。この交流は、小学生と大学生の食育プログラム開発を目的とし、食生活の調査も行ってきた。家庭の食環境や親の食習慣、さまざまな食課題を明らかにするなかで、国際的に注目されているフードリテラシーという概念の導入に至った。食生活の調査結果を踏まえ、食材や調理、献立の知識が深まるカードゲームや、食材を漢字とイラストでデザインし、缶バッジやシールにして配布する、味表現のカードゲーム等を考案し、プログラムとして

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
５．報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
				実践してきた。
2.尼崎市子ども食堂の交流拠点機能の継続と発展について	共	2023年11月27日発表	2023年度地域連携協議会	2018年、本学と尼崎市が包括連携協定をする以前からボランティア活動をしていた教育学部・吉井先生の学習支援活動に始まり、コロナ禍を経て再開した子ども食堂での発展的交流として、教材開発と、スパイスカレーを介した多文化交流により、共生社会を体現する事例を発表した。
3.子ども食堂における漢字・食育融合教材の開発と実践	共	2022年2月16日発表	研究成果の社会還元促進に関する発表会	子ども食堂を交流拠点とし、小学生と大学生の食育と漢字教育に4年計画で取り組む研究計画と成果を発表。2021年度は、QOLを高める食育・漢字教育の成果を2点、報告する。1)小学生と大学生の食育調査 2)漢字・食育融合教材(試作版)
4.あかし市民図書館における“ウオヘンくん”ラボ	単	2021年12月20日発表	2021年度地域連携協議会	あかし市民図書館において小学生対象のイベントを、(株)コトバノミカタ・明石市立図書館・設樂ゼミの産官学協同で実施、イベント後も資料展示に加え、ワークシートのTwitter掲載により、参加者の情報発信の場を提供した。
5.情報資源組織演習Ⅰ	単	2021年3月	本の扉第16号	京都ノートルダム女子大学司書・司書教諭課程ニューズレターに、「司書課程から」とし、担当科目の紹介をまとめた。
6.漢字キャラクターの子ども向け動画コンテンツ開発		2021年2月12日	研究成果の社会還元促進に関する発表会	漢字の部首をキャラクターにした学習コンテンツを開発、動画にして配信、教育効果を検証した。大学生が脚本・声優・視聴者アンケート分析を担当し、キャラクターデザインは株式会社コトバノミカタと社会連携をし、アンケートでは転勤族ママ＆キッズ探検隊in西宮に協力を得た。
7.ネーミングのコトバ学	単	2019年2月15日	武庫川女子大学言語文化研究所	子どもにとって身近なキャラクターのネーミングとして、ドラえもんのひみつ道具を例として参照したのち、子ども新聞におけるキャラクターのネーミングを概観した。また、全体討論にコメンテイターとして参加した。
8.ネーミングのコトバ学	共	2018年2月16日	武庫川女子大学言語文化研究所	昨年に引き続き、地名のネーミング、名前の正しさといった講座の後、日本語のキャラクター（ドラえもん・ポケットモンスター）のネーミングについてコメンテイターとして解説。
9.ネーミングのコトバ学	共	2017年2月18日	武庫川女子大学言語文化研究所	外国文学作品、人気ブログ、人名のネーミングについてのシンポジウムにおいて、コメンテイターとして参加。
10.ＮＨＫアーカイブス学術利用トライアル研究第２期		2010年	NHK	ＮＨＫバラエティ番組を視聴し、表記実態と文字情報の機能について考察した。
６．研究費の取得状況				
1.発達段階に応じた生活を中心とした「薬育リテラシー」育成モデルの構築	共	2025年4月1日~	2025年度　基盤研究(C)25K05831	薬に関する教育（薬育）は成長に伴って生活課題が変わることと連動させる必要がある。そこで本研究では、発達段階に応じて生活を中心とした「薬育リテラシー」育成モデルを構築することを目的とする。①日本の幼児から成人までを対象とした薬育リテラシー育成モデル構築のための課題を明らかにし、発達段階の薬育到達目標を可視化するためにロードマップを作成する。②ロードマップを基に、発達段階に応じた薬育プログラム・教材を開発し、3模擬授業形式の学校教員、社会福祉に関わる職員・支援者対象研修会を開催して普及させる。本研究成果によって、発達段階に応じた生活課題に合わせた「薬育リテラシー」育成のプログラムが提供され、苦難からの逃避手段として薬を服用するのではなく、その背後にある生活課題を主体的に解決するスキルの育成に進展されることが期待される。
2.言語文化と異文化接触における横断的探究型プログラムの開発 ―日本人学生の問いと、留学生の高度日本語に資するテキスト作成―	共	2024年9月3日採択	ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）共同研究スタートアップ経費	総合的な探究の時間における教科・科目等横断的な学習や探究のプロセスの充実を図る高等学校教育の質変化に伴い、大学における学び、特に、教職課程履修学生を対象とする学びでは、探究のプロセスを具現化するスキルと、探究の「問い」を立てる学究的態度を養成したい。そのための横断的探究型プログラムの開発として、横断的探究を検討し、テキスト作成を目指した。国語科教育に応用する中古文学、日本語学では指示詞「この」と食の語彙（「児童書にみる『食のことば』における探究」として論文化）、日本語教育における難民支援ボランティアの事例研究を進めた。
3.多文化共生を担う人材育成に資する言語文化探求型プログラ	共	2024年8月2日採択	令和６年度　文部科学省科学技術人材育成補助事業	横断的共同は研究者のみならず、多文化共生時代の次世代リーダーの育成に必要であるため、学生（日本人及び留学生）が分野を横断し、協働で解を求めるスキル養成のプログラム開発と実践を目指

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
６．研究費の取得状況				
ムの開発 －日本語・日本文学、第二言語習得、国語科指導を横断する問いと探求－			「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（女性リーダー育成型）」1（架橋横断的重点共同研究）	す。本研究で開発するプログラムは、分野を横断する問いとして、日本文学、日本語学、エスノグラフィー、難民支援など複数分野の横断的事例を精査、考察する。次に「問い」へ発展するプロセス（「常識」「常態」の観察、違いや疑問に気づくチェックリスト）や、協働による気づきの言語化（ワークシート）、過程を評価するルーブリックなど教材により、探究スキルを養成する。現行のアクティブ・ラーニングや協働する学びの質を向上させ、バイアスを意識して自他を認め合い、多文化共生を担える人材を育成する。
4.子ども食堂の交流拠点機能研究：漢字・食育融合教材の開発と実践による教育効果の評価	共	2021年4月1日～4年間	令和3年度科学研究費助成事業　基盤研究(C)　課題番号２１Ｋ０２３４３	子ども食堂にて子どもと大学生との交流を通じ、食生活向上と漢字学習の機会となるよう、①小学生と大学生の食育プログラム開発、②食育を題材とする漢字教材開発、③子ども食堂の交流拠点機能の検証に取り組む。本研究の食育は、小学生にとって、わが国の言語リテラシーに必須となる漢字をキャラクター化した教材により、食にまつわる漢字の成り立ちや意味を学ぶ教材開発によって実践する。また、地縁のある大学生と子どもとの交流が、食と漢字の教育効果を高めると想定し、貧困と教育を解決する地域交流の場としての子ども食堂の機能を検証する。子どもの社会参加による、持続可能な豊かな食経験と学習機会の創出を目指す。
5.科学研究費（基盤研究C T16K026740）	共	2016年度		研究代表者：佐藤彰 研究課題名「災害報道の談話分析的研究」

学会及び社会における活動等	
年月日	事項
1.2021年4月1日～現在	子ども食堂モコモコ倶楽部ボランティア活動「美味しい漢字教室」
2.2011年1月～現在	言語と交流研究会
3.2009年3月～現在	社会言語科学会
4.2008年4月～現在	計量国語学会
5.2007年6月～現在	メディアとことば研究会
6.2004年4月1日～現在	武庫川女子大学国文学会